令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【宮前中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	①【情報活用能力】目的に応じて情報を「編む」力 ②【論理的推論能力】「もし～なら」を予測し、最適解を導く力 ③【自己調整能力】学習のプロセスを客観視する力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①既存の文章をそのまま書き写すのではなく、読み手のニーズに合わせて情報を「要約・再構成」する活動や、根拠（エビデンス）を明確にして、自分の主張を論理的に構築するトレーニングを実施する。 ②「公式の暗記」から、その公式が「社会のどのような場面で変数を制御するために使われているか」を考える授業構成や、理科の実験において、「結果の予想」だけでなく、「なぜその予想になるのか」というメカニズムの言語化を徹底する。 ③単元末の振り返りにおいて、「何ができるようになったか」だけでなく、「どのプロセスで迷い、どう解決したか」という「学び方」のメタ認知を促す。

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	「自分には、よいところがあると思う」（49.1%）や「友達関係に満足している」（64.6%）といった肯定的な回答の割合が全国平均を上回っており、自己肯定感の高さや良好な対人関係がうかがえる。「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対し、「当てはまる」と強く肯定した生徒が0.0%（全国は43.4%）となっており、協働的な学びに対する意識や実感に課題がある可能性が考えらる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	1. 安定した生活基盤と高い自己肯定感[基本的生活習慣の定着・家族との良好な関係と自己肯定感・将来への前向きな姿勢] 2. 協働的な学びへの高い親和性と意欲[多様な意見への関心・対話を通じた深い学び・主体的な課題解決] 3. 高いICT活用能力[実践的なICTスキルの習得] に関して高い回答結果が出ている。学力調査の平均正答率（国語・数学）が県・全国を上回っている背景には、こうした「高い自己肯定感」「協働的な学びへの意欲」「主体性」が強固な基盤として機能していると考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	1.学びの「活用・転移」、2.個に応じたフィードバック、3.対話の「深まり」に関する、4.自律的な学び（メタ認知）の4種の問いかけに関して、授業研究日を設定し、それぞれの授業方法のセクションで学習方法を考える時間を設定し、実践した。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	① 協働的な学びの質的向上（「意見共有」から「概念の構築」へ） ・本校の強みである「互いの意見を認め合う温かい雰囲気」を活かし、対話活動の目的を「意見を出すこと」から「思考ツール（マインドマップやベン図等）を活用して比較・分類し、共通の概念を導き出すこと」へシフトしていく。 ② 個別最適な学びの充実（選択の保障と自己調整） 一斉指導の時間を精選し、「自分の学習スピードや課題に応じて解く問題を選択する時間」や「ICTを活用して自分のペースで振り返り・解き直しを行う時間」を取り入れることで、得意意識や自己効力感を育む。 ③ 目標と評価の一体化（納得感のある振り返り） ・単元の始めに「目指すパフォーマンス（ルーブリックなど）」を生徒と共有し、生徒同士の相互評価や自己評価の機会を設けることで、生徒自身が自分の課題を自覚し、主体的に次の目標設定へつなげる。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）